

羽沢御嶽講について

羽沢御嶽講 講元 内田 武

私たち羽沢御嶽講は、農地と自然が残されている横浜近郊の神奈川県羽沢町にあり、講員は八十八名で構成されており、組織、運営、活動は羽沢神明社奉賛会により行われております。

結講は古く服部主幹宮司様、服部筑前守、村々壇中家数帳により、今から約二〇〇年前に記録された資料が残っております。正確には分かりませんが、多分その頃か、それ以前の元禄の頃に結講されたのではないかと説もありません。そのへんは記録がありません。ですから定かではありません。いずれにしてもそれ以来先祖から代々今日まで受け継がれてきております。

付き合いはじまりご家族皆様と共に親戚同様のお付き合いが今日まで続いており、毎年三月に講廻りのため我が家に来られお会いできるのを大変楽しみにしております。

お父様のときは、羽沢の講員宅を歩きながら一軒、一軒廻られておりましたが、その当時羽沢も貨物線の駅が出来、宅地化が進み講員宅も散在して廻るのが非常に難しくなり、その頃から私が車を出し一緒に講員宅に廻るようになり、現在に至っております。

八郎宮司様の先導の元で厳粛のうちに式典並びに除幕式を済ませることが出来ました事を聞いております。

羽沢御嶽講は（一区、二区、三区A、B、四区、五区）六区に分かれており、毎年四月に五穀豊穡、家内安全の祈願のために順番に代参が行われております。今年は一区、二区、三区Bが当番で代参を済ましております。羽沢の場合、平成十七年まで基本的に毎年、太々神楽を奏上してきましたが講員の多様化、世代交代、高齢化等、様々な要因により、やむなく平成十八年より代参のみとなり、一回りした平成二十四年（七年ごと）に講中全体で盛大に太々神楽を奏上することに決定しております。これからの奉賛会、並び、講員がいったいとなって先

祖から代々続いている羽沢御嶽講を後世まで残していく責務があると思ひ頑張つてまいりたいと思ひます。

最後になりますが御嶽神社のご隆盛と神社関係各位のご健勝、ご多幸をお祈り申し上げます。



八柱社・基礎修復工事

山頂に位置する当社では、急斜面を背に奉られる末社は、地盤が引かれると崩落の危険が特に高くなってしまい、時には地盤の基礎工事が必要となります。この度は、八柱社崩落の危険性があるという事で基礎修復工事をさせて頂きました。七月三十一日の日没後に八柱社仮殿遷座祭を厳かに執り行いました。一日も早く皆様に御参拝いただけますよう尽力致したく存じます。お社を曳いた地中からは鎌倉時代の火鉢と思われる破片などが多く出土し、当社の歴史の深さを偲ぶことができました。



奉納

随神門から手水舎までの区間の石段に、手摺を御奉納いただき、皆様により安全に参詣いただける様になりました。今後とも皆様方の御協賛をお願い申し上げます。

随神門下手摺奉納
平成二十一年五月吉日 竣工
奉納者 川崎市 菅稲田堤講中
講元 小川正年
講員 五十二名
主幹宮司 馬場 喜彦



国宝 米国・メトロポリタン美術館へ

いと願い、この鞍とともに、畏くも御嶽大神の御分霊も海を渡られ、大神の御加護により、世界の人々が平和に暮らす日々が来ることを祈るばかりであります。来春三月には帰社致しますので、特別展を開催し多くの皆様に拝観いただけたらと存じます。

この度、NYのメトロポリタン美術館で開催される「侍の芸術展」へ、当社所蔵の「国宝・金覆輪円文螺鈿鞍」が展示されます。九月七日に安全祈願祭を執り行つた後に、米国へ向かいました。世界の人々が集まると言われるNY。この御神宝が、単なる日本文化の芸術・美術を伝えるに留まらず、日本人の信仰心の深さ、敬神の念がこの鞍を創り、守り続けていることを世界中に伝えて欲しいと願っています。



巫女舞講習会と太々神楽の一般公開

小中学生を対象に、巫女舞の講習会が夏休みを利用して開催された。小学生五名・中学生四名が指導を受け、熱心に舞の習得に努めた。八月の夜神楽では金井美樹・山本こころ（共に小五）の両名がその舞を披露し、今後は夜神楽や薪神楽で皆が舞台を踏む。薪神楽では篝火がその姿を照らし、影も舞い幽玄へと誘います

夜神楽 四月より十一月までの毎月第四日 曜日 神楽殿にて（夜八時より）

薪神楽

平成二十一年十月十日（土）・十一日（日）
平成二十二年十月九日（土）・十日（日）

野外特設舞台（雨天神楽殿）にて（夜七時三十分）

神楽と雅楽の一般公開 六・九月 二十日 神楽殿にて（午前十一時）

演目はその都度替わりますので詳しくはお問い合わせ下さい

